「庄内農法」に関する近現代史年表と研究文献リスト（未定稿）

徳　永　光　俊

第一章　はじめに

最初に東北・山形・庄内の思い出を簡単に記しておく。生まれて初めて東北を訪ねたのは一九八三年一〇月,『日本農書全集』の第Ⅰ期刊行を機に作られた全国組織の「農書読む会」で,「会津農書」の故郷の会津若松であった。まだ就職していなかったが，このような機会でないと会津農書の現物は見られないと思い，勇を奮って幼な子を連れて参加した。

その後一九八五年度に山形大学農学部の綱島不二雄教授が京大農史講座に内地留学されたので，私のフィールドであった奈良盆地などを案内し研究交流をした。そのご縁で，一九八八年九月に鶴岡の山形大学農学部での集中講義に招いていただいた。そして，有名な山居倉庫や豊原村，羽黒山などを訪ねた。その際には，大泉村の富樫俊一さん，上郷村の佐藤さんを農家訪問しているのだが，情けないがちゃんとした記憶・記録がない。夜は酒田や鶴岡の街をぶらぶらしてみた。いえ，飲み歩いた。最近映画で有名になった「ケルン」は，当時は知らず残念ながらスルー。これが庄内の初めての訪問である。この時に余目町の斎藤勇さんの梵天窯をお訪ねして，焼き物を買った。庄内の土を使った青色の大皿と蓋つき容器は，三〇年を過ぎた今も現役活躍中である。庄内とのご縁をこの陶器がありがたくも今もってつなげてくれている。使うたびにその時のことを思い出すのである。

その後あれやこれやしているうちに，一〇年ほどの月日がたってしまった。一九九六年二月に急に思い立ち，一人で安藤昌益のすごした青森県八戸市と秋田県大館市を訪ね歩いた。誰も知り合い，紹介のない独り旅であったが，一番印象に残っているのは昌益よりも，ものすごい「地吹雪」である。初めての体験でほんまに全身雪まみれになりながら，歩いた，歩いた……これが東北か。

その年の一二月には，有機農業で有名な置賜郡の高畠町をぶらぶらし，タラの芽栽培で有名な最上郡金山町の栗田和則さんをお訪ねした。一〇名ほどの農家と懇談し，夕方から合鴨をさばいて鍋を囲みながら，酒を飲み交わした。だいぶ酔いも回ってきた頃，ある農家が,「先生はなんで怒ってしゃべるんですか」（もちろん山形弁で）と聞いてきた。「ええっ？」。よくわからんかったが，どうも早口の関西弁でしゃべくりまわし，間が空くと白けてしまうので気を回しすぐにツッコミやボケを連発していたのだ。山形には山形のテンポ，間合いがあり，しばし沈黙，無口が訪れても気にならないらしい。話のリズムが違うんだ……これが山形か。

それでも逆に面白くもなり，翌年の八月には仙台での東北農文協のシンポジウムに参加

し，九月には蔵王白石での守田志郎二〇回忌の集会に参加した。さらに一一月には山形・天童での東北農文協のシンポに参加し，多くの東北の農家と知り合うことになった。その後そのまま秋田・青森と回ったが，弘前の夜，カラオケに行き適当に歌っていると，何やら旅行帰りのおっさんがいきなりマイクを奪って歌い出した。大阪なら何やねんとくるが，段々と静かになっていく。実にうまい。千昌夫か吉幾三の望郷の歌だったが，やがて泣きながら朗々と歌い語るのだ。東京の出稼ぎ先から帰ってきたところだと言う。またもや，関西の文化との違いを酔いながら実感した思い出である。これが東北か。

そして，一九九八年二月には知り合った農家から，東京で開かれた農文協の「どぶろくを飲む会」に誘っていただいた。東北各地から皆が自慢のどぶろくを持ち寄って，飲み明かすのだ。翌日，二日酔いであったが，山形・村山のスイカ農家である門脇栄悦さんに会った。二日酔いのせいかもしれないが，意気投合して（と言っても門脇さんは飲まない）村山のお宅を訪ねることになり，善は急げで三月に。以後，現在までお付き合い，各地の農家訪問が続いている（『日本農法の天道』第一章を参照　二〇〇〇）。前にも書いたが，数年たってから，「先生，やっと顔つきが丸くなってきたね。これまでは裃着ているようで，固かったよ。そんなんでは，農家は本当のこと言うてくれんよ」，と言われた。これが山形か。

実は，門脇さんと庄内にも行っているのである。一九九九年二月，その頃は民間の天気予測を調べていたので，先ほどの鶴岡市大泉村のダダチャ豆農家である富樫俊一さんの紹介で，阿部太一さんを訪ねたのである。独自の予測方法で，『稲作豊凶の予知はできないか―五五ヵ年間の気象予測の記録―』（一九七七）などの研究をされていた。そのようなお話は聞いたのだが，戦前から長年書き続けていた日記のことは全く聞かずじまいであった。細谷昂さんの『小作農民の歴史社会学』（二〇一九）を読んだ時は驚いたのなんの。こんな記録も残されていたのか。時すでに遅し。二〇〇一年に亡くなられていた。不明を恥じるばかりである。自分から見せびらかしたり自慢しないのだ。これが庄内か。

「庄内農法」という用語は，私の造語である。これまでの研究史でも地元農家でも，使われていないようである。庄内地域の「在地農法」という意味で，今後「庄内農法」と呼ぶ。私は，これまで西南暖地稲作の「大和農法」（これも私の造語）を地元の古文書を使って研究してきた（『日本農法史研究』一九九七）。また私も編集などに携わった『日本農書全集』全七二巻を検討して，「日本農法」を考えてきた。しかし，生まれも育ちも四国の松山で，学んで住んでいるのは京都，研究対象は奈良，勤めは大阪とくれば，どうしても東北寒地稲作をイメージすることは難しい。私の日本農法は，多分に西南暖地稲作ではないかと言われても仕方がない。定年退職したのを機に，一度ゆっくりと東北寒地稲作，その代表であろう庄内農法を比較研究しようと思い立った次第である。

ただし，若い時の大和農法の研究のように古文書を使うことはできない。庄内農法については，これまでに数多くの研究調査の文献や報告書が出されている。これらを検討しながら研究していくこととする。私が現物や複写などで確認できたものを，第三章の文献リストとして載せている。庄内農法に関してまだまだあるだろうが，私が情報入手出来て，

役に立ちそうで集めえたものに限られていることを予めお断りしておく。膨大な蓄積がある県市町村史，個別論文については，載せていない。また本間家や地主制に関するものも載せていない。ほぼ年代順に並べているが，内容により大きく括っており，年代順になっていないところもある。研究調査対象地や執筆者の生地などでわかるものは，「※」で注記している。それに関連して後に研究がされているものについては，「→」で論文であっても紹介している。重要なもので未だ見ていないものは，最後に（未見）と注記している。

文献リストに，農家や農村にとどまらず庄内の聞き書きや写真集，図録などが多いのは，土地勘０の私がそれらにより私なりの庄内イメージを作ろうとしているからである。もちろんそれらにもバイアスはかかっているだろうが，もはや明治から昭和戦後までの農村風景を見ることは出来ず，古老からの聞き取りも出来ない状況で，私なりに選択である。

第二章の年表についてであるが，各年の最初が庄内地域の反収（石），次いで山形県の反収（石）を示す。明治元年～一一年までは記録がなく，明治一二～一七年までは，県のみである。明治一二年から昭和三〇年までの数字は，『山形県史』本編二・農業編中（一九六九）の二一，六七，七〇，一九七，二五五頁による。

右端の数字は，山形県の一〇アール当たり単収（Kg）である。明治一四年から二八年までは『山形県災異年表』（二〇一五），明治二九年から昭和二一年までは同年表と『山形県農業試験場百年史』（一九九六）の巻末年表による。数字は昭和四，一五年を除き一致している。違う両年は，反収より計算しなおしている。昭和二二年以降の庄内地域，山形県の単収は，『山形県農林水産業のすがた―農林水産累年統計―』（一九九八）による。

各年の記載事項は，明治五～三〇年は，『山形県農事試験場史』（一九五二）巻末の「山形県農業年表」による。出典は明記されている。明治二九～昭和六四年は，『山形県農業試験場百年史』（一九九六）の巻末年表による。ただし，出典の記載がない。そのため，出典記載がある『山形県史』別編三年表（一九八九）で確認できるものには，たとえば（＊県123）と略記・ページ数を付記している。同様に，『酒田市史年表　改訂版』（一九八八）の場合は（＊酒123），『新編庄内史年表』（二〇一六）の場合は（＊鶴123）である。記載事項で「＊」の記号がないものは，三つの年表から主に庄内農法に関わる直接の引用である。付記がないものは，三つの年表では未確認である。

農家副業や出稼ぎなどを記しているのは，「生業複合論」（安室知）の考えからである。また，『時を紡ぐやまがたの女性たち』（一九九五）の巻末年表からの引用は，（女性123）と付記する。庄内だけでなく重要と思われる事項は，山形県全体からも掲載している。これまでの農業史は男性中心になりがちであったが，家族経営である限りは女性の活動にも留意しなければならないからである。本年表は，以上の六つの文献に基づいている。

なお，本稿では縦書きを想定して，漢数字を基本的に用いている。しかし，本誌では縦書きは二段組みになるため，大変わかりづらい。そのため横書きにしているので，読みにくいがご了解いただきたい。本稿の年表と文献リストは，私が次稿以降で行う庄内農法の研究のための基礎作業であり，今後庄内農法を研究しようとする方々のための参考資料である。

第二章　「庄内農法」に関する近現代史年表

	平均反収（石）		一〇アール当たり単収（Kg）	
	庄内地域	山形県	庄内地域	山形県

明治元（一八六八）年

明治二（一八六九）年

・田畑とも青作で稔りなく凶作。（鶴362）

・飽海郡高瀬村樽川の菅原弥右衛門，乾田を試みる。（県322，酒295）

・庄内川北三郷の農民，雑税廃止など一八ヵ条の要求を酒井県に提出。天狗騒動の始まり。（＊県322，酒296，鶴360）

明治三（一八七〇）年

・良米増収法として，米の抜き穂による種取りを村役人の先導で奨励する布達。（鶴366）

明治四（一八七一）年

・鶴岡の加藤一正が乳牛を飼育して，牛乳を販売。（鶴373）

明治五（一八七二）年

・酒田県，旧庄内藩士三六〇人による鶴岡東部の河原地開墾に着手。（県326，鶴374）

・旧庄内藩士約三千名，東田川郡羽黒町の松ヶ岡（後田林）開墾地，一〇〇余町歩開拓。（＊県327，鶴376，女性459）

・庄内川北三郷の農民五千人余，青沢村に集まり雑税廃止などを要求。（県326，酒302，鶴373）

明治六（一八七三）年

・地租改正条例公布。（県328，酒305，鶴379）

・酒井家が大手門前の御厩を牛舎に改造し，乳牛を飼育。（鶴380）

・富岡製糸工場に，置賜県から一四名，酒田県から六名の伝習工女を派遣。（女性460）

明治七（一八七四）年

・田川組の農民一万数千人，不正追求や過納返済金要求などで酒田に向かう。飽海郡の農民も蜂起する。ワッパ騒動。（県330，酒310，鶴384）

明治八（一八七五）年

・大凶作。（県332）

・勧業寮より鶴岡県に米国産果樹三四六本が下付され，希望者に分配する布達。（鶴392）

・松ヶ岡開墾場，蚕種製造を開始。上州式座繰器を導入し生糸真綿を製造。（県331，女性463）

明治九（一八七六）年

・大豊作。（酒317）

・県，大区毎に勧業世話掛を設け，農科果樹園芸を奨励。（県333）

・山形香澄町に植物栽培試験場を開設。（県333）

明治一〇（一八七七）年

明治一一（一八七八）年

・ワッパ騒動の指導者である森藤右衛門らが提出した訴えに対し，判事児嶋惟謙は農民に六万三五六二円余の下戻金を認める判決。（県337，酒319，鶴402）

明治一二（一八七九）年　一・一四六
・千歳園に勧業試験場開設。この頃各郡に植物栽培試験場開設。（県338）
・鶴岡の士族酒井調良，西田川郡袖浦村の自宅で庄内最初のりんごを栽培。（県339，酒323）
明治一三（一八八〇）年　一・二五九
・大豊作。（酒326）
・東田川郡押切新田の加藤安興，川代山に牧場を開く。また，洋式経営をもくろみ，米国よりプラオ式開墾機・洋牛・洋式農機具を導入。（県340～341，酒330）
・西洋種のリンゴ・梨子が出回る。（酒325）
明治一四（一八八一）年　一・〇〇二　一五八
明治一五（一八八二）年　一・二〇三　一九五
・飽海郡富岡村一帯にわたり，乾田法を施行。（酒330）
明治一六（一八八三）年　一・〇八一　一六一
・県勧業課，馬耕試験を実施し，馬耕機械・馬を貸与。（県346）
明治一七（一八八四）年　一・〇四九　一五八
・道形村などで貸与された馬や農具で試験馬耕するが失敗。（鶴413）
・県令折田平内，東田川郡を巡視し，福岡県の馬耕法を勧奨。（県347）
・県が東田川郡御用掛堀季雄を付き添わせ，庄内三郡の農民六人を福岡県に派遣して，馬耕などの実際を視察させる。（鶴414）
・飽海郡米島村菅原孝胤らが福岡県農学校長に，馬耕修行のための耕夫や農馬の拝借願いを提出。（酒333）
・森藤右衛門・斎藤良輔・平田安吉らが，庄内三郡連合勧業会を開催し，庄内米などの改良を協議。（鶴414）
・薄荷（ハッカ）の植付が大流行。（女性470）
明治一八（一八八五）年　〇・八七五　〇・九六五　二〇〇
・山形市に馬耕伝習所設置。馬耕技術者の養成を図る。（県348）
明治一九（一八八六）年　一・七七〇　一・四八一　二二四
・山形県内で除草用の雁爪使用を見る。（酒337）
明治二〇（一八八七）年　一・五七九　一・四三二　二一七
・松ヶ岡製糸場，鶴岡に開設。松ヶ岡とその周辺の養蚕農家より繭を集める。（県349，女性473）
明治二一（一八八八）年　一・四二七　一・二七二　一九二
・三月一日より五日間，千歳植物園で種苗交換会を開催。（県350）
明治二二（一八八九）年　一・四二八　一・三八三　二一二
・平田安吉ら，西田川郡勧農会を結成。福岡県を視察し，翌年馬耕教師を招き，馬耕技術を導入。（県352，酒343，鶴422）
明治二三（一八九〇）年　一・七二三　一・五七五　二三八
・八～九月にかけ米作改良講話会，県内一八ヵ所で開催。（県353）
明治二四（一八九一）年　―　一・三二五　二〇〇

・東田川郡において，福岡県勧業試験場の島野嘉作を招き，飽海郡では福岡県の馬耕教師伊佐治八郎を招いて，乾田馬耕技術を導入。（県354，酒345，鶴425，女性477）
・遊佐町西遊佐から始まり，庄内砂丘一帯でスイカの栽培がおこなわれる。（酒343）

明治二五（一八九二）年　　一・七六六　　一・五九五　　二四一
明治二六（一八九三）年　　一・五二五　　一・四八一　　二四四
・東田川郡大和村の阿部亀治，水稲品種亀の尾を創選。（＊県356，鶴427，女性479）
・東田川郡横山村の須藤吉之助，水稲品種早生大野を創選。（＊県356）
・酒井調良，西田川郡黒森村に農場を経営，庄内柿の栽培に成功。（県356，女性479，※鶴430では二八年？）
・山居倉庫が設置。本間家が出資し，酒井家が経営にあたる。（酒348，女性479）
明治二七（一八九四）年　　一・七一二　　一・六五七　　二五〇
・農学者横井時敬が来県し，稲作講話。（酒352）
・遊佐町高瀬の石川治兵衛が新式田植框（田型）を創案し，各地に普及。（酒351）
・飽海郡宮野浦の漁民が初めて北海道へ出稼漁業に行く。（酒351）
明治二八（一八九五）年　　一・八一四　　一・六〇三　　二四二
・飽海郡南遊佐村宮内に「乾田記念碑」が建立。（酒352）
明治二九（一八九六）年　　一・四五八　　一・四七六　　二二三
・山形県農事試験場を東村山郡出羽村大字漆山に設置。（＊県359，女性482）
・西田川郡農事試験場を大宝寺村に設置。（＊県359，鶴430）
・東田川郡農会，西田川郡農会が設立され，勧農会は解散。（鶴431）
明治三〇（一八九七）年　　〇・九七八　　一・〇九五　　一六六
・ウンカ被害甚大，九月になっても青稲で前代未聞の大凶作。（＊県361，酒355，鶴432，女性483）
・南京米（外米）の輸入始まる。（女性483）
・本間家が小作人を指導する目的で，本間農場を設置。（酒356）
・西田川郡広岡新田村で梨・西瓜・桃・ブドウなどの西洋種の栽培を始める。（酒356）
・刈屋に本楯の伊東勘助が梨の新品種長十郎を植える。（酒356）
・庄内柿の品種改良により，種なし柿の苗木を分譲する。（酒356）
・この頃，乾田馬耕が庄内で七〇％普及。
明治三一（一八九八）年　　一・二八八　　一・四七七　　二二三
・庄内は虫害で大凶作。（酒358）
明治三二（一八九九）年　　一・七四九　　一・六〇〇　　二四二
・耕地整理法公布。（県363）
・飽海郡農会の加藤徳広が水稲品種豊後の栽培成績を頒つ。（酒358）
・西田川郡興農会という青年有志の会が設立され，各町村に支部。（鶴434）
明治三三（一九〇〇）年　　一・八五六　　一・七六二　　二六六
・農会法の施行にともない，郡町村農会の設立が続く。（酒360）
・東田川郡の模範耕地整理地として松尾と下山添が選ばれ，翌六月に起工。県内最初の耕

地整理となる。（鶴435，※県史では三六年？）
・鶴岡の田辺重則，庄内物産株式会社を創設。米・織物・藁工品などを北海道に移出。（県364，女性487）

明治三四（一九〇一）年　二・一六九　一・九三四　二九四

・大豊作。（酒361）
・西田川郡大泉村矢馳で一五馬力の電力機を用い一〇四町歩灌漑。日本における電力揚水機の嚆矢。（＊※鶴437，ただし三五年？）
・「乾田紀功碑」が矢流川八幡神社に建立。（酒360）
・県立荘内農学校を東田川郡藤島町に設置。（＊県365，酒360，鶴435）

明治三五（一九〇二）年　一・二八二　一・一八〇　一七八

・水稲作柄，冷害による凶作。四月から八月中旬にかけ低温冷気続く。（＊酒363）
・西田川郡東郷村の佐藤弥太右衛門，水稲品種イ号を創選。（＊県366）

明治三六（一九〇三）年　一・八三七　一・七三八　二六三

・県内最初の耕地整理施行模範田，飽海郡遊佐村吉出地区に設置。（県368）
・本間家，飽海郡内五地区に耕地整理を行い，施行後の効果を示す。（県368）
・本間家が小作人に堆肥小舎の設置を奨励。（酒365）
・東田川郡余目村農会，螟蛾買い上げを行い，その駆除に努める。金一厘につき七蛾。（＊県367）
・東田川郡一六合村の檜山幸吉，水稲品種豊国を創選。（＊県368）
・前年の凶作のため，東北地方飢饉。（＊県368，鶴439）

明治三七（一九〇四）年　二・二八二　二・〇二〇　三〇五

・この年豊作。（酒369）
・飽海郡上郷村に農事研究会戴星会，青年農事研究集団踏月会結成。（県369）
・飽海郡農会，農事試験場設置の建議を知事に提出。（酒367）
・西田川郡京田村の工藤吉郎兵衛，水稲品種敷島を創選。（＊県369，鶴440）

明治三八（一九〇五）年　一・四二三　一・二一九　一八四

・冷害，いもち病発生のため凶作。とくに晩稲に被害。（＊県371，酒370）
・県内で初めて，誘蛾灯使用される。（県371）
・東田川郡藤島村，耕地整理組合事業に着手。（県370）

明治三九（一九〇六）年　一・八四八　一・六六七　二五二

・東北大飢饉。
・県，耕地整理基本調査施行手続を公布。耕地整理事業が本格的に開始。（県372）
・東田川郡下山添青年農談会（農事実行組合の前身）が発足。（鶴442）
・飽海郡宮野浦漁民，樺太で出稼漁業。（女性492）

明治四〇（一九〇七）年　二・〇二六　一・八六四　二八二

・県内二二九町村のうち，二二三町村農会設立。（県374）
・吉田寅松が川南に用水堰工事に着手し翌年通水，吉田堰と称する。（酒378）

・西田川郡東郷村農会，堆肥改良奨励規定・堆肥品評会規則を定める。（県374）
・東田川郡大和村の阿部万治，水稲品種万石を創選。（県374）

明治四一（一九〇八）年　　二・〇五一　　一・八三七　　二七八

・県農試，一〇年間の試験結果により亀の尾，豊後などの優良水稲一〇品種の選定，通し苗代に代わる改良苗代，田植時期，排水適期などを奨励通達。（＊県375）
・庄内三郡で県農試の支場を庄内に建設するように知事に請願。（鶴446）
・飽海郡地主会結成，農事改良と耕地整理事業の推進を図る。（県375，酒380）
・飽海郡西荒瀬村の富樫雄太，水稲品種酒井金子を創選。（＊県375，酒380）
・庄内三郡の農家休日を制定。（鶴446）
・北海道天売島沖合で鱈漁に従事中，大暴風にあい庄内漁船六六隻のうち五四隻が転覆，二一九人が溺死。（酒378）

明治四二（一九〇九）年　　二・三七四　　二・〇七七　　三一四

・水稲作柄，夏の多照高温により大豊作。（＊県377，酒383，女性495）
・西田川郡栄村の鈴木源蔵，水稲品種平田早生を創選。（＊県376，鶴446）
・余目町で肥料共同購入を開始。（酒383）
・酒井調良が改良に成功した庄内柿を「ひらたねなしかき」と命名。（＊県377，酒383）

明治四三（一九一〇）年　　二・〇七四　　一・七九四　　二七一

・八月の冷気の影響で，ほとんど満足できる米粒がないありさま。（鶴447）
・飽海郡耕地整理組合，一〇ヵ村にわたる耕地整理工事に着手。（県377）
・高橋千代蔵が考案した水車で，飽海郡米島村付近の高台の田を灌漑。（酒385）

明治四四（一九一一）年　　一・三一七　　一・六一七　　二五三

・庄内，五月には降雨がなく農業用水が渇水状態となり，夏に雨天が多く，いもち病大発生，三割減収の大凶作。（＊県379，酒386，鶴448）

明治四五（一九一二）年　　一・九二八　　一・七八〇　　二六九

大正元（一九一二）年

・本間農場の本間敬治が水稲品種酒田早生を創選。（酒388）

大正二（一九一三）年　　一・七四七　　一・五五〇　　二三四

・亀の尾，四万七千 ha に普及。
・飽海郡の耕地整理，郡内水田面積の約八割を完了。その結果に端を発し，飽海郡内の小作農民六千人が集合し，飽海義挙団を結成。五ヵ条の嘆願書を地主に提出。（県381，酒391）
・飽海郡本楯村の茂木辱次郎が水稲新品種福柳を創選。（酒391）
・飽海郡の豊川園芸組合設立，梨の栽培面積が一二町歩。（酒392）
・農機具を扱う荘内機械商会が開業。（鶴451）
・酒田港からの内国米の輸出量二二万八三七九石，外国米の輸入量四万一六三四石。（酒392）

大正三（一九一四）年　　二・〇八二　　二・〇六三　　三一二

・庄内地方，凶作。（＊県382）
・飽海郡農事講習所が開設。生徒二五名。（酒393）

・飽海郡義挙団が地主に歎願すること一二〇数回におよび，ようやく尖鋭化。（酒395）

大正四（一九一五）年　二・二四三　二・一三二　三二二

・工藤吉郎兵衛，水稲品種福坊主を創選。（＊県383）

・飽海郡西荒瀬村の耕地整理完了。（県383）

大正五（一九一六）年　二・二八一　二・〇八七　三一六

・飽海郡耕地整理事業は予定の八千町歩が完了。（酒400）

大正六（一九一七）年　二・〇九九　二・〇四八　三一〇

・ブラジル・サンパウロへ移民第一陣七人出発。（女性503）

大正七（一九一八）年　二・二三八　二・一三二　三二二

・富山県で米騒動，山形県にも波及。（＊県386，酒404，鶴455，女性504）

・県農会主催の婦人農事講話，県内一八ヵ所で開催。（女性504）

大正八（一九一九）年　二・二七一　二・一四九　三二五

・鶴岡市荒町に農機具を扱う鈴木兼隆商店が開業。（鶴457）

・県農会主催の婦人農事講話，県内一三ヵ所で開催。（女性505）

大正九（一九二〇）年　二・二六九　二・二一六　三三四

・県農試庄内分場を東田川郡藤島町に設置。（＊鶴458）

・鶴岡駅前に両羽肥料会社が設立。（鶴457）

大正一〇（一九二一）年　二・一七三　二・〇八五　三一五

・水稲品種「陸羽一三二号」育成。

・庄内分場，水稲の硫安分施を試す。

・浜中出身の早坂留蔵が，アメリカよりメロンの種を送り，浜中で栽培。（酒416）

大正一一（一九二二）年　二・二四七　二・二〇二　三三三

・庄内地方で小作争議。飽海郡北平田村の庄司柳蔵，漆曽根耕作人組合を結成。同西平田村の小島小一郎，平田耕作人組合を結成。飽海郡西荒瀬村の富樫雄太ら，日本農民組合鳥海支部結成，県内最初の日農支部。（＊県391，酒418）

・富樫雄太が水稲品種泉岳を創選。（酒418）

大正一二（一九二三）年　二・一七二　二・〇七一　三一三

・荘内耕作連盟設立。（酒421，※県395は一四年？）

・農事実行組合が設立。（酒421）

・鶴岡駅前に農機具を扱う丸徳工業所が開業。（鶴464）

・東村山郡瀧山村主婦会，瀧山小学校内に農繁託児所を設立。（女性509）

大正一三（一九二四）年　二・四二四　二・二七八　三四四

・この年，大豊作。（酒425）

・本間光勇ら飽海共栄組合を作り，小作料の適正化をはかる。（酒423）

・共栄組合は農民の組合ではないとして，酒田に小作人組合が続出。沿岸小作人連盟を結成して，共栄組合に対抗。（県393）

・山形市に小白川農繁期託児所を開設。（女性510）

大正一四（一九二五）年　　二・四一四　　二・二九二　　三四七

・農民運動激化する。

・本間家の田・畑所有面積は一八五〇町歩。（酒428）

・飽海・鶴岡・東田川の一一農民団体が「庄内耕作連盟」として統一。（酒427，鶴467）

・酒井調良が西田川郡袖浦村果実共同出荷組合の代表として，柿二箱を皇太子殿下に献上。この時，初めて「庄内柿」の名称使用。（鶴466）

・西田川郡上郷村で農家副業として，鯉の稚魚を苗代に一万尾，溜池に七万尾放流。（鶴467）

大正一五（一九二六）年　　二・一一一　　二・〇九六　　三一七

昭和元（一九二六）年

・飽海共栄組合が解散し本間家を中心に地主側が敬士会を設立。（県395，鶴467，※酒425は一四年？）

・鶴岡農機具商組合が設立。（鶴467）

昭和二（一九二七）年　　二・一四四　　二・一二九　　三二二

・酒田市山王堂町斎藤石蔵が斎藤鉄工所（現在の斎藤農機製作所）を創立。（酒438）

昭和三（一九二八）年　　二・二四六　　二・一七〇　　三二八

・小作争議急増。東田川郡山添村，同郡東村，飽海郡内郷村など。（県400～401）

・最上郡農会，婦人に養鶏知識の普及会開催。（女性514）

・県，農繁期農村託児所の設置を奨励。（女性514）

昭和四（一九二九）年　　二・三四八　　二・一九九　　三三三

・大豊作。（酒446）

・小作争議が県下で頻発し一七八件で全国一位，とくに庄内・村山に多発。（酒443，鶴475）

・本間家を中心とする飽海郡耕地整理組合の工事が竣工し，約六千町歩のすべての田は一反歩区画となる。（酒446）

・飽海郡余目町で山形県主催，託児所保母講習会を開催。（女性515）

・山形県農会立農村女学校，東村山郡山辺町浄土寺で開催。卒業生六五名。以後，昭和一七年まで県内各所で毎年開かれる。（女性515）

・この年の海外移民は二五四名，うち婦人一〇八名，ブラジルが最多。（女性515）

昭和五（一九三〇）年　　二・三二八　　二・二八九　　三四六

・水稲作柄大豊作，農業恐慌（豊作飢饉）。（＊県404，鶴475）

・日本育児院七窪分院長五十嵐喜広が，飽海郡浜中の砂丘地でメロン栽培に成功。（酒451）

・西田川郡大泉村白山林に婦人農事改良組合が設立。（女性516）

・第二回農村女学校，東田川郡藤島町大洞寺で開設。卒業生七一名。（女性516）

・西田川郡沿岸出漁者保護組合員の北海道出稼ぎ，女子だけでも二四〇～二五〇名。（女性516）

昭和六（一九三一）年　　一・九七七　　一・九八三　　三〇〇

・庄内地方にいもち病発生し，大凶作。（＊酒455，鶴477）

・農本主義運動誌『協働村落』第二号，鶴岡の星川清躬らが発行。協働村落研究会主催の夏季自治大学，三日間鶴岡で開催。（県404～405，※鶴476では昭和七年？）春季総集会は鶴岡大宝館で開催（女性517）

・不況と凶作のため，農村の娘身売り，社会問題に。（県405，女性517）

昭和七（一九三二）年　二・〇八九　二・一一六　三二〇

・凶作。（酒460）

・農村経済建て直しの更生運動始まる。（＊県406，鶴478）

・第一次満洲移民が出発する。山形県出身は三九名。（県406，鶴478）

昭和八（一九三三）年　二・五二〇　二・四四八　三七〇

・大豊作。豊作貧乏。（酒466，鶴480）

・星川清躬や小林省吾ら，黒川協働農場を東田川郡黒川村桃平に開設。（県407，鶴479）

・庄内産業組合青年連盟結成。反山居倉庫，産業組合の民主化運動を展開。庄内で小作争議頻発，百数十件にのぼり日本一。（県407，酒465，女性519）

・農村女学校出身者が主体となり，生活改善同盟会を組織。最上支部が最初。（女性519）

昭和九（一九三四）年　一・四〇九　一・一九九　一八一

・水稲作柄未曾有の天明・天保以来の大凶作，県は平年作比で四六％，庄内は約六〇％。農村子女の身売り（県では全国一），欠食児童など惨状をきわめる。（＊県408～409，酒467，鶴482，女性520）

・第七回農村女学校，西田川郡大山町の慶運寺で開催。卒業生六一名。（女性520）

昭和一〇（一九三五）年　二・三六一　二・二二八　三三七

・山形県の満洲移民が弥栄村を開く。（＊県409）

・県，各地に備荒倉を建てる。（＊県409）

・前年の大凶作の疲弊から立ち直れず，娘身売りや二，三男などの身売り相次ぐ。（女性521）

昭和一一（一九三六）年　二・二四五　二・二五五　三四一

・酒井忠悌らが中心となり，荘内松柏会が創立，事務所は東田川郡渡前村の長南七右衛門幹事長宅。（鶴484，※酒469では一〇年？）

・庄内地方の十二ヵ村に皇道自治会支部結成。（県411，鶴484）

・最上郡稲舟村女子青年団，第一回女子馬耕伝習会開催。（女性522）

・移植民思想の普及と移住の斡旋保護を目的に東置賜郡中郡村で，県下初の二・三男女の会の発会式，五〇〇余名参加。（女性522）

昭和一二（一九三七）年　二・二八八　二・三〇四　三四八

・田中庄助，庄内にて硫安分施の実地指導をする。

・農村に典型的な研究集団「天狗会」が発足。本楯倉庫に事務所を置き，田中の分施稲作を進める。（酒473）

・動力耕耘機，普及し始める。

・第一〇回農村女学校，酒田市善道寺で開催。卒業生五〇名。（女性523）

昭和一三（一九三八）年　二・三四三　二・二三〇　三三七

・簡易温床苗代を奨励。

・飽海郡西平田村で農会主催，女子馬耕伝習会。（女性524）

・郷土誌『松柏』発刊。東田川郡渡前村，荘内松柏会。（県413）

・庄内二市三郡草履表競技大会，本間農場で開催。農村女性の副業として県で奨励。（女性524）

昭和一四（一九三九）年　　二・五九五　　二・五四一　　三八四

・稲作柄大豊作。（酒479）

・満洲への分郷移民始まる。

昭和一五（一九四〇）年　　二・三〇七　　二・三三四　　三五三

・この頃より水稲分施技術が普及。

・飽海郡西平田村の斎藤政雄，水稲品種大宮錦を創選。（酒481）

・飽海郡本楯村，婦人五〇数名に牛耕（ママ）伝習会。（女性527）

・第一四回農村女学校，余目町乗慶寺で開催。卒業生四七名。（女性527）

・満洲移民花嫁の卵，女子義勇軍一三名，新潟港出発。（女性526）

昭和一六（一九四一）年　　二・一六二　　二・一六六　　三二九

・庄内地方いもち病大発生。

・飽海郡新堀村に小作争議が頻発し，適正小作料を決定。（酒482）

昭和一七（一九四二）年　　二・四九四　　二・三九六　　三六六

・福坊主，二万六千 ha 普及。

昭和一八（一九四三）年　　二・四二〇　　二・二三二　　三三八

・新堀村農業会が設立。会長は山木武夫。（酒486）

・県内の農繁および季節託児所が一二一三ヵ所と増加。（女性529）

昭和一九（一九四四）年　　二・二一四　　二・二〇七　　三三四

・町村農業会に女子農業技術員登場。（女性530）

昭和二〇（一九四五）年　　一・八五三　　一・八二一　　二七五

・大雪と冷害，肥料と人手不足で凶作。（＊県425，酒492，鶴499，女性531）

・東田川郡渡前村に青年団が発足。（鶴499）

昭和二一（一九四六）年　　二・三四五　　二・二三九　　三六一

・農地改革。（＊県426）

・本間家の小作地一七五〇町歩，小作人二五七七人。最高時には約三千町歩か。（酒499）

昭和二二（一九四七）年　　三・〇六〇　　二・二〇二　　三四〇　　三二六

・供出米をめぐる悲劇，県内各地で発生。供米完遂率一〇四％，全国二位。（＊県428，女性533）

・東田川郡黄金村で，農村婦人だけで大豆を作り共同出荷。（女性533）

・「荘内農村通信」が発行。編集者，富樫広三。（酒505）

昭和二三（一九四八）年　　二・八三一　　二・六九三　　四二八　　四〇七

・水稲作柄大豊作。（＊酒509）

・農業改良普及事務所，三二ヵ所設置（一二二名の増産食糧技術員）。（＊県429，女性534）

昭和二四（一九四九）年　　二・三五五　　二・三二七　　三五四　　三五二

・飽海郡浜中村の篤農家小林助吉没。砂丘地農業に桃。梨・ブドウ・洋梨などの果樹栽培を導入。（酒511）

・庄内販売農業協同組合連合会，設立認可。（県429）

昭和二五（一九五〇）年　二・五四三　二・四二〇　三八二　三六六
・保温折衷苗代，普及奨励。
昭和二六（一九五一）年　二・四四〇　二・二八〇　三六九　三四四
・デンマーク農法指導農場を新庄市松本に設置。（＊県435）
昭和二七（一九五二）年　二・五一一　二・四四七　三八一　三七〇
・海外への農業移住が再開され，酒田からはブラジルへ一六名。（酒522，※県438は二八年？）
・酒田から初めて北洋漁業に出漁。（酒523）
昭和二八（一九五三）年　二・四三七　二・三一九　三六九　三五一
・大冷害となる。（鶴521）
・西田川郡西郷村で全国初の若妻学級が開催され，二五〇名が受講。（鶴522，女性539）
昭和二九（一九五四）年　二・八七二　二・七二六　四三四　四一二
・この年の供米，一四五・五％を記録し戦後最高。（＊県439，女性540）
・第三回県動力耕耘機競技大会に，三四名中唯一の女性は飽海郡平田村。（女性540）
・西田川郡西郷村中学校に若妻学級開設，二七〇名。（女性540）
昭和三〇（一九五五）年　三・一五〇　三・〇四八　四七六　四六一
・水稲作柄大豊作。（＊鶴525）
・片倉権次郎氏「五石取り稲作」の確立と普及。
・鶴岡市京田婦人学級，県下初の婦人学級誌『たるほ』作成。（女性541）
昭和三一（一九五六）年　四六八　四三六
・大豊作。（鶴528）
昭和三二（一九五七）年　四七八　四五六
昭和三三（一九五八）年　四七九　四三八
・ビニール畑苗代の普及奨励。
昭和三四（一九五九）年　四六六　四六〇
昭和三五（一九六〇）年　四九九　四八七
昭和三六（一九六一）年　四八五　四七五
・農業基本法が公布。（＊県447，酒546，鶴537）
昭和三七（一九六二）年　四七六　四七一
・第一次農業構造改善事業が始まり，一般地区に鶴岡市・小国町。（＊県449）
・県営伝習農場に女子部併設，二〇名入所，翌年卒業。（女性548）
昭和三八（一九六三）年　四八八　四七六
・県農試が水田単作大型機械化体系を実証するため，鶴岡市小淀川に総合実験農場を設置。その後，八年間にわたり，大型トラクター・コンバイン・田植機導入実験。（＊県450，鶴540）
・この頃より水稲集団栽培が普及。
・寒河江市柴橋農協，出稼ぎの男手をカバーするために若妻と主婦を対象に「稲つくり冬季講習会」を開始。（女性549）
・西村山郡朝日町栗木沢の若妻たち，集団で耕耘機の免許取得。（女性549）

・「三チャン農業」という言葉が流行語となる。（＊県451）

昭和三九（一九六四）年　　五一一　四八七

・史上最高の豊作。（酒562）

・余目町出稼ぎ対策委員会，出稼ぎ留守家族座談会開催。（女性550）

・最上郡舟形町太折地区，月二回の婦人だけの農休日を設ける。（女性550）

昭和四〇（一九六五）年　　五一六　四九六

・稲作集団栽培，山形県などで急増。

・全国農協婦人大会で，最上郡金山町農協婦人部，「なめこ栽培で出稼ぎ問題を解消したい」を発表。（女性551）

昭和四一（一九六六）年　　五一九　五一四

・余目町若夫婦学級開設，夫婦共学の学級は県下初。（女性552）

昭和四二（一九六七）年　　五九〇　五六七

・米づくり日本一。大豊作。（＊県456，酒570，鶴547，女性553）

・県，六〇万トン米づくり運動を展開。（＊県455，女性553）

・庄内砂丘でビニール水田が一二〇ヘクタールに。（鶴548）

・鶴岡市農業委員会と山形県農業会議との共催で，「家族協定農業」の研修。（鶴546）

・農繁期の季節保育所，県内に五〇〇ヵ所設置。（女性553）

昭和四三（一九六八）年　　五七六　五六九

・米づくり連続日本一，六〇万トン達成。大豊作。（酒574）

・田植機の普及進む。自脱型コンバイン実験的導入。

・県産リンゴ，酒田港（空港カ）から台湾へ直行便で初出荷される。（県457）

・西置賜郡に，県内初の出稼ぎ労働者災害共済制度発足。（女性554）

・農林省山形統計調査事務所の調査，農家の主婦男なみの労働，就業者一五万三千人で男子とほぼ同数。（女性554）

昭和四四（一九六九）年　　五一三　五三二

・米づくり三年連続日本一。

・「米づくり運動」は「良質米生産向上運動」に改組。

昭和四五（一九七〇）年　　五七七　五七七

・米づくり四年連続日本一。大豊作。（酒580）

・米生産調整開始（減反率一〇・九％）。（＊県460，鶴550）

・庄内地方に稚苗田植機，導入される。

・県出稼ぎ者組合連合会結成。（県460），鶴岡市が出稼ぎ移動相談所を開設。（鶴550）

・県が農業者の転職訓練のため，訓練生を募集。（鶴551）

昭和四六（一九七一）年　　四八三　五〇〇

・減反に冷害，病虫害が重なり，庄内の作況指数は戦後最低の八五。（鶴552）

・鶴岡市の出稼ぎ者数が，一六三八人で過去最高。（鶴552）

昭和四七（一九七二）年　　五一六　五二九

・鶴岡市櫛引町に，東北地方でも有数規模の養豚団地が完成。（鶴554）

昭和四八（一九七三）年　五七〇　五六三

・置賜郡高畠町で有機農業研究会が発足。（女性559）

昭和四九（一九七四）年　五七三　五六六

・この年，一九七〇年代より農家の兼業化が急激に進行する。（＊県467，女性560）

昭和五〇（一九七五）年　六二〇　六一二

・米単収，稲作史上最高の六一二キロと全国最高を記録。（＊県469，酒600，女性561）

・鶴岡市の兼業農家の割合が九四・七％となる。（鶴558）

・中国からの戦争孤児や開拓花嫁五八名の里帰り決まる。（女性561）

昭和五一（一九七六）年　五二六　五一一

・冷害のため，県の作況指数九二。（鶴560）

・庄内の水田にコブノメイガ大発生。

昭和五二（一九七七）年　五九三　五八一

・庄内砂丘地にプリンスメロンが広く栽培され，庄内経済連の取扱量が八〇万ケースを超える。以後年々減少し，一九八三年では一二万ケースに。（鶴561）

昭和五三（一九七八）年　五八一　五七九

昭和五四（一九七九）年　五四八　五四八

昭和五五（一九八〇）年　五八四　五四六

昭和五六（一九八一）年　五三四　五二五

・水稲作況指数，庄内地域九二の不良。

昭和五七（一九八二）年　五七六　五五三

昭和五八（一九八三）年　五九九　五八二

・中国残留孤児の一名，出身地と家族名が判明。昭和六三年にも。（女性569，574）

昭和五九（一九八四）年　六二四　六〇八

・大豊作で米代金は史上最高。

昭和六〇（一九八五）年　六三一　六一三

・水稲史上最高の大豊作で日本一。（女性571）

・庄内砂丘地にアンデスメロンが広く栽培され，庄内経済連の取扱数量が百万ケースを超える。（鶴578）

昭和六一（一九八六）年　六一〇　六〇四

・県の新規学卒就農者数一〇〇人を割る（七五人）。

昭和六二（一九八七）年　五九九　六〇〇

昭和六三（一九八八）年　五七六　五三六

・冷害による不作。

・県産米の「庄内三二号」を「はなの舞」と農水省が内定。（鶴579，女性574）

昭和六四（一九八九）年　六一一　五七九

第三章　「庄内農法」に関する研究文献リスト

Ⅰ　江戸期の随筆や農書など

・井原西鶴「日本永代蔵」（一六八八　西の堺と並ぶ，東の酒田の繁昌ぶり）（岩波文庫）
・松尾芭蕉「おくの細道」（一六八九　羽黒山・酒田・鶴岡）（岩波文庫）
・菅江真澄「あきたのかりね」（一七八四　庄内の農村風景を描写）（『菅江真澄著作集』第一巻　一九七一　未来社）
・古川古松軒「東遊雑記」（一七八八　鶴岡城下の様子）（東洋文庫二七　平凡社）
・橘　南谿「東西遊記」（一七九五　鶴岡）（東洋文庫二四八　平凡社）
・野田泉光院（成亮）「日本九峰修行日記」第四巻（一八一六　鶴岡・羽黒山・松山・鳥海山）（『日本庶民生活史料集成』第二巻　一九六九　三一書房）
・市原円潭「農耕四季図」（明治初期ヵ）（酒田市立資料館開館二〇周年企画展示図録に所収）
・大淵文渓「農耕四季図」（明治期ヵ）　※いずれも酒田市立資料館所蔵
・「庄内農耕図屏風」（近世後期ヵ）（『図説　鶴岡のあゆみ』七五～七六，八一頁）
・「村山農耕絵巻」「村山郡雪景図絵」（『図説　山形県史』一〇八～一一一頁）　（未見）
・「大泉四季農業図」（江戸後期　絵巻物）　※致道博物館所蔵　西田川郡大泉村
・青山永耕「農耕掛物」（一八七八）（いずれも『日本農書全集』第七二巻 一九九九 農文協）
・須藤功『大絵馬ものがたり』第一巻「稲作の四季」（二〇〇九　農文協）
・北村孫四郎「北条郷農家寒造之弁」（一八〇四），今成吉四郎「農事常語」（一八〇五）ともに米沢藩　（同上　第一八巻　一九八三　農文協）
・佐藤藤蔵「出羽国飽海郡遊佐郷西浜植付縁起」（一七〇二～一七九九）（同上　第六四巻），後藤小平次「名物紅の袖」（一八〇五）（同上　第四五巻）
・イサベラ・バード『日本奥地紀行』（一八八〇　新庄・米沢など　庄内は通過せず）（完訳第二巻　東洋文庫八二三　二〇一二　平凡社）

Ⅱ　戦前頃までの研究文献

1　最初は官庁などによる調査

・「明治十四年農談会日誌」（『日本農業発達史』改訂版第一巻　一九七八　中央公論社）
　※最上郡中渡村・荒木伊右衛門，西村山郡楯南村・石山筆治が出席　庄内からはなし
・「明治一八年山形県小作慣行調査事例」（一八八五），「山形県における小作慣行調査（明治三〇年頃か）」（農林省農業総合研究所積雪地方支所・研究資料第六号）
・『山形県農事調査書』（一八八八　山形県）（『明治前期産業発達史資料』別冊一四－Ⅱ　一九六六　明治文献資料刊行会）
・志岐常秋『山形県稲作改良法筆記』（一八九一　山形県内務部）（『明治農書全集』第二巻　一九八五　農文協）　※農商務省普通農事巡回教師
・尾泉良太郎『秋田県稲田之遺利』（一八九七）　※庄内三郡の乾田馬耕の実施状況
・堀尾鍭作（こうさく）『山形県農業一斑』（一九〇一　山形県農会）　※県農試第二代場長

・山形県内務部勧業課編『山形県耕地整理成績概要』（一九〇八，一〇，一五）
・山形県輸出米検査所編『農村調査資料』県下一〇ヵ村（一九一四）
→農林省農業総合研究所積雪地方支所・研究資料第三〇・三一号にて全文復刻（一九六七）　※飽海郡観音寺村，西田川郡上郷村
→宮崎勇「明治後期－大正初期における農民主導型耕地整理事業の展開―山形県旧西田川郡上郷村を事例として―」（東北大学『研究年報経済学』第五三巻一号　一九九一）
→鈴木千代吉『稲作安全栽培法』改訂版（一九四八　初版は一九四三　東北出版協会）
→上郷の郷土史をつくる会『上郷の歴史』（一九九三）　※西田川郡上郷村

2　最初のまとまった記録・研究

・斎藤威雄編著『庄内農事改良史』（一九一二　斎藤威雄）
※西田川郡東郷村，東田川郡広瀬村の農事改良事績あり
→手打明敏『近代日本農村における農民の教育と学習』（二〇〇二　日本図書センター）に同書の紹介あり
・佐藤金蔵『荘内に於ける稲作の研究』（一九二四　荘内農藝研究会）　※酒田　本間農場
・　同　『私の田圃日記』（一九二八　正法農業座談会）　※飽海郡内郷村
・柳沢多蔵『大日本農会報』四五一・四五四・四六五号（一九一九，二〇）
・　同　『新しい稲の種類の造り方』（一九二六　日向書房）　※西田川郡温海村

3　様々な動き

・富樫広三編『村の雑誌』一九二八・一〇～一九三一・一まで二六号
※東田川郡大和村生まれ　飽海郡西荒瀬村助役など
・同「無駄多き遍路」（富樫・齋藤信治『読書の思出』所収　一九五四　荘内農村通信社）
→小野寺雅昭「旧荒瀬村と『村の雑誌』」（『山形県地域史研究』会報第二三号　一九九八）
・五十公野清一（いずみのせいいち）『農民―新生を胎む土―』（一九二六　草原社）
・　同　『庄内平野―豪農本間の曝露―』（一九三二　同志文学社）　（未見）
・丸山義二『庄内平野』（一九四一　朝日新聞社）　※東田川郡大和村
・松田甚次郎『土に叫ぶ』（一九三八　羽田書店）他　農本主義　※最上郡稲舟村鳥越
・結城哀草果『村里生活記』（一九三五　岩波書店）他　※斎藤茂吉門下 山形市本沢村菅沢

4　大学や研究機関などによる調査

・「東田川郡泉村基本調査」（一九三〇）（積雪地方支所・研究資料第三五号　一九七二）
・「東北地方における『農業労働力調査』『土地に関する調査』」（一九三九）（同上第三二号　一九六八）
→日塔哲之「庄内農村の農村更生運動―東田川郡泉村の場合―」（『山形県地域史研究』会報第二三号　一九九八）
・東京帝国大学農政学研究室『庄内田所の農業，農村及び生活』（一九三六　岩波書店）
→錦織英夫「稲作中核地帯としての庄内平野の農業地理学的研究」（『矢作教授還暦祝賀記念論文集』一九三一　日本評論社）　※西田川郡東郷村
→川田信一郎『村々を訪ねて』（一九五一　農民教育協会）に東郷村の紹介

→手打明敏「明治後期における在村地主の社会的活動―山形県西田川郡東郷村の一農民の日記(明治三八～四五)を通して」(『筑波大学教育学系論集』第二一巻二号一九九七)
→平田順治『農村生産集団成立過程の研究』第一章（二〇〇〇　行路社）
※一九六七年の調査　西田川郡東郷村天神堂
・積雪地方農村経済調査所編『庄内地方米作農村調査』（一九三七）
→大場正巳「『庄内地方米作農村調査』の問題点」（『農業総合研究』第二一巻三号　一九六七）
→有本寛他「戦前日本農業の規模と土地生産性―山形県庄内地方（一九三五）の横断観察研究―」（『経済研究』第六八巻四号　二〇一七　一橋大学経済研究所）
・積雪地方農村経済調査所編『満州農業移民母村経済実態調査―山形県東田川郡大和村―』（一九四一）　※東田川郡大和村
→丸山義二『現代篤農傳』（一九四四　東光堂）に富樫義雄の紹介
→山形県教育研究所編「東田川郡大和村実態調査報告―庄内水田地帯の人間形成とその課題―」（一九五三）
→柚木駿一「『満州』農業移民政策と『庄内型』移民―山形県大和村移民計画を中心に―」（『社会経済史学』第四二巻五号　一九七七）
→三原容子「山形県庄内地方の産業組合運動と満洲移民送出運動の思想―皇国農民団を中心に―」（『東北公益文科大学総合研究論集』第一八号　二〇一〇）
・吉岡金市『日本農業と労働力』（一九四二　白揚社）※一九三九年の調査 飽海郡北平田村
→北平田公民館郷土史研究会『ふるさとのあゆみ』（一九八五），『郷土のくらしと行事』（一九九七），『目で見る北平田史』（二〇〇三）

Ⅲ　戦後から一九七〇年頃までの研究文献①（地元中心）

1　戦前からの篤農家の記録・証言

・東北農家研究所編『稲作の秘訣を語る』（一九四八　新自治協会）※研究所長は菅原兵治
・　同　『水稲単作経営と自給圏規模』（一九五一）　※研究所は東田川郡羽黒町松ヶ岡
・荘内農村叢書一『荘内の稲の作り方』（一九四九　荘内農村通信社）
・　　同　　二『荘内稲作の要点』（一九五〇　荘内農村通信社）
・　　同　　七『稲作設計一覧表　昭和二六年』（一九五一　荘内農村通信社）
・杉山良太『私の稲作体験』（一九五九　荘内農村通信社）　※飽海郡本楯村杉ノ崎
→筑紫二郎「現代庄内米作の父―杉山良太」（『農業協同組合』第一七巻八号　一九七一）

2　地元農家のネットワーク作り

・富樫広三・丸藤政吉『荘内農村通信』『農村通信』　一九四七～二〇二〇　八七五号まで
※富樫が第一代社長，丸藤が第二代
→阿部順吉『畦道悠々』（二〇〇〇　農村通信社）　※第三代　飽海郡北平田村新青渡
→東京農大院・桐山大輝らの月刊『農村通信』の作物学からする庄内の多収技術の分析（『日本作物学会講演会要旨集』第二四五～七巻　二〇一八～九）

・『庄内農家の友』（一九四九～一九九四　六二四号まで　庄内農事改良協会→庄内経済連）
　→『庄内経済連二五年のあゆみ』，『同　四〇年のあゆみ』（一九七四，一九九五）
・庄内営農研究会『庄内営農研究』（一九五六～ヵ　一九五八・一〇で二一号，一九六四・七で八八号）
・松木正利編集発行『農業荘内』（週刊紙　一九五八～一九八一）
　→松木正利『花々片々』（一九九八　荘内日報社）　※菅洋の幼馴染　ダリヤの育成
・荘内松柏会『松柏』（一九三八～現在）
　→『荘内松柏会五十年のあゆみ』，『同　続二十年のあゆみ』（一九八九，二〇〇六）
　→『松柏歳寒心　荘内松柏会八〇周年記念誌』（二〇一六）
　→長南七右衛門『作間道』（一九六八　荘内松柏会）　※荘内松柏会初代幹事長

3　地元で活躍する技術指導者

・佐藤富十郎『大日本農会報』六二八号（一九三三），七〇六号（一九三九）※県農試
・　同　『稲作講話』（一九三九　荘内三鍬会）三鍬会叢書三　※第三代庄内分場長
　※東田川郡押切村対馬　斎藤九郎右衛門出版
・　同『水稲増収の基本と実際』第三版（一九五二　佐藤富十郎先生還暦記念図書刊行会）
・　同『東北水稲増収の基本と実際』増補改訂版（一九五六　荘内松柏会）上とほぼ同内容
・田中正助『大日本農会報』七二六号（一九四一）　※東村山郡金井村江俣
・　同　『稲作増収の新研究』（一九四三　篤農協会）
・　同　『肥料分施による稲作増収法』（一九四四　人文閣）
　→水稲分施発祥の地顕彰碑建立協賛会編『近代稲作育ての親：田中正助』（一九九〇）
・寒河江欣一『稲作研鑽』一・三（一九五七，一九五九　萬世協会）　※東置賜郡川西町
　→遠藤太郎他『東北「米の会」の記録』（『日本の農業』四　一九六一　農政調査委員会）
　→寒河江欣一監修・遠藤太郎『専業者の米つくり―東北“米の会”の技術―』（一九六四　農政調査委員会）
　→寒河江欣一先生遺稿集『無限なる可能性を求めて』（一九七四　米の会）
　→島貫学『三左衛門家の二百年』（二〇一六　私家版）父が米の会　※東置賜郡吉島村

4　本間農場の動き

・五十嵐長蔵『稲と共に』（一九六〇　荘内松柏会）※田中正助の弟子 西田川郡大泉村山田
・　同　上　増補第七版（一九七八　農業荘内社）
・忠鉢幸夫『荘内稲づくりの進展』（一九六五　荘内松柏会）　※本間農場長　鶴岡市本田
・　同　『最新の技術体系　五石の米作り』（一九六七　荘内松柏会）
・　同　『稲作技術革新』（一九八三　庄内農業技術研究会）
・　同　「庄内稲作の発展過程」（『日本作物学会紀事』第五〇巻三号　一九八一）

5　山形県農業試験場などを中心にした動き

・滝沢洸他『庄内稲作改良叢書』第一・二輯（一九四八，四九　県農試庄内分場凌霜会）
・「農試叢書」第一～二一号（一九五〇～一九五七　山形県農業試験場）
・滝沢洸・斎藤太蔵（第一四代場長）『東北のイネ作り山形県版』（一九六一 農文協東北支部）

・滝沢洸『庄内稲作技術のあゆみ』（一九八一　東北出版企画）　※第六代庄内支場長
・『山形県農事試験場史』（『農業発達史調査会資料』第六七号　一九五二）
　→同様のものが山形県農業試験場より（一九五二）
・『山形県立農業試験場八〇年史』（一九七七），『　同　百年史』（一九九六）
・山形県立農業試験場庄内支場創立六〇周年記念『想い出』（一九八〇）
・　同　『研究と思いで：創立八〇周年記念』（二〇〇〇）

6　佐藤繁実の活躍

・佐藤繁実「明治大正期における農業技術の発達と背景―庄内地方の乾田馬耕と耕地整理を中心として―」（『農業発達史調査会資料』第八六号　一九五五）
・　同　「庄内地方における農業生産力展開の契機―耕地整理とその影響―」（『日本農業発達史』別巻　上　一九五八　中央公論社）
・　同　「農業経営の若い創造力―庄内平野における『あととり』農民の意識と行動―」（『日本の農業』四一　一九六五　農政調査委員会）
・　同　「集団栽培プラス中型トラクター稲作の必然性―山形県庄内平野―」（『日本農業年報』XVI　米作 新しい波　一九六七　御茶の水書房）
・　同　「伝統農法の創造と継承―山形県庄内地方にみる―」（長須祥行編『講座　農を生きる』三「“土”に生命を」一九七五　三一書房）
　→佐藤ら庄内農村問題研究会編『庄内農村問題』第一～三号（一九五九～）　（未見）
　→細谷昂他『佐藤繁実先生追悼文集』（一九九七　農村通信社）
　→丸藤政吉「動力耕耘機段階の庄内稲作農業」（近藤康男編『食糧自給；可能性と問題点』一九六七　御茶の水書房）

Ⅳ　戦後から一九七〇年頃までの研究文献②（県・大学・研究機関など）

1　農地改革など

・及川四郎他『山形県農地改革史』（一九五三　社経研究会・山形大学教育学部内）
　→同内容で山形県農地開拓課（一九六三），増補改訂版（一九八四　不二出版）
・山口哲夫「庄内平野農村の近況」（『農業と経済』第二四巻六号　一九五八，三六巻二号一九七〇，第三九巻三号　一九七三）　※東田川郡藤島町

2　一九五〇年代の研究

・鎌形勲『山形県稲作史』（一九五三　東洋経済新報社）
・　同　『東北農村風土記』（一九五六　東洋経済新報社）
・農林省農業改善局普及部営農改善課編「山形県庄内平野における農業構造」（『営農改善資料』第一四・一六号　一九五一）
・山形県農業改良課「農業生産力の発展過程に関する調査」第五・一四号（一九五三）
　※東田川郡八栄里村，同郡渡前村，西田川郡栄村
　→鶴岡西部県営圃場整備事業栄地区協力会『鶴栄：栄・農業のあゆみ』（一九九八）
・農林省大臣官房調査課「庄内地方の経済構造と農業生産力の発展」（『調査資料』第一六

九号　一九五四）（紙谷貢執筆）　※統計資料による庄内全域
・紙谷貢「庄内地方の経済と農業」（『農業総合研究』第九巻二号　一九五五）
・山岸正子「東北水田単作地帯農家の生活構造」（『東北農業試験場報告』第七号　一九五六）
→『中平田村の年表と伝承』（一九九一　中平田公民館）　※飽海郡中平田村
・「家族労働力の評価に関する研究―山形県庄内平野及び岡山県南部藺草地帯の調査―」（九州大学農学部農業経営研究資料第一六号　一九五七）　※飽海郡上田村安田
・大谷・井上編「佐賀平野と庄内平野における農業機械化と生産力」（『戦後の農業生産力構造と農業機械化に関する研究』三　一九五八）　※飽海郡北平田村牧曽根
・山形県企画審議室統計課「昭和三〇年臨時農業基本調査　農家調査結果報告」（一九五八）
・「庄内地方における農民の諸組織形態の研究―山形県広野村上組部落―」（農民教育協会　一九五八）　※東田川郡広野村上組
・内藤雅夫編『新堀農業のあゆみ』（酒田市新堀支所　一九五八）　※東田川郡新堀村
→　同　「戦前における農民分解について―庄内地方の事例による―」（宇都宮大学農学部「学術報告」第五巻二号別冊　一九六三）
→落野目五百年史編纂委『五百年のあゆみ―落野目村史』（一九九二）　※新堀村落野目

3　一九六〇年代の研究

・五十嵐憲蔵「水稲作経営における技術体系の形成と生産性―水田単作地帯の事例を中心として―」（『農業技術研究所報告』H　第二三号　一九五九）
・　同　「稲作技術体系の発展過程に関する実証的研究―庄内平野一農家の作業記録を素材として―」「（同　H　第二六号　一九六一）　※北平田村牧曽根
・　同　「稲作技術の発展と体系化に関する研究―水田単作地帯を対象として―」（同　H　第三三号　一九六一）
→須藤陽子「庄内・松沢家『農耕日誌』の分析―明治農法展開の一考察―」（『農村研究』第七一号　一九九〇）　※飽海郡北平田村牧曽根
→牧曽根史誌編纂委『牧曽根のあゆみ』（二〇一一）
・本谷耕一『稲作多収の条件―多収技術の解明―』（一九六六　農文協）
・塙遼一『変革期の日本農業』（一九六八　未来社）
→山田盛太郎編『日本農業生産力構造』（一九六〇　岩波書店）
・東京大学農学部農経教室編『庄内農業の現時点』（一九六六）
→加藤光一「東北庄内地方におけるムラの農地改革」（『北海学園大学経済論集』第四五巻四号　一九九八）　※飽海郡北平田村中野曽根・新青渡
→中野曽根部落史編集委員会『中野曽根の部落史』（一九八七）
→新青渡史誌編纂委員会『新青渡史誌』（二〇〇五）
・長谷川宏二「庄内稲作農家の生活構造―山形県鶴岡市小淀川の実態―」（『東北農試農経研究資料　第六号　一九六六』）　※西田川郡大泉村小淀川
・庄内調査会『庄内農業の経済と技術』（第五号 一九六八）　*（未見）*
・　同　『庄内農業の当面する課題』（第六号　一九六八）　*（未見）*

・農政調査委員会『庄内農業構造の変化と稲作生産組織』（一九六八）　（未見）
・山形県六〇万トン米つくり運動推進協議会編『山形県の稲作』（一九六八）
・今村奈良臣『稲作の階層間格差』（『日本の農業』六二　一九六九　農政調査委員会）
・　同　「米作農民の意識と行動―庄内平野における動向を探る―」（『農林統計調査』第二一巻六号　一九七一）
・大井武「庄内地域における農業機械化の研究」（日本大学『経済集志』第四〇巻別号　一九七〇）　※庄内全域
・『山形県史』本編一～三　農業編上・中・下（一九六八～七三 ）

Ⅴ　一九七〇年代以降の研究文献

1　農学サイドからの研究

・嵐嘉一『近世稲作技術史』第三章第六節（一九七五　農文協）
・　同　『犁耕の発達史―近代農法の端緒―』（一九七七　農文協）
・川田信一郎『日本作物栽培論』（一九七六　養賢堂）
・池隆肆『稲の銘』（一九七二　私家版）
・菅洋『稲を創った人びと―庄内平野の民間育種―』（一九八三　東北出版企画）
・　同　『庄内における水稲民間育種の研究』（一九九〇　農文協）
　→『稲の恩人　工藤吉郎兵衛』（一九六七　京田公民館）
　→小松光一編著『浪漫・亀の尾列島』（二〇〇一　創造ネットワーク研究所）
　→西尾敏彦・藤巻宏『日本水稲在来品種小事典』（二〇二〇　農文協）
・青葉高『北国の野菜風土誌』（一九七六　東北出版企画）
・山形在来作物研究会編『どこかの畑の片すみで』Ⅰ・Ⅱ（二〇〇七，一〇 山形大学出版会）
・須々田黎吉「明治農法形成における農学者と老農の交流（一）」，同「萬船居士遺稿『大野の農業（乾田の起源）』」（『農村研究』第三一号　一九七〇）　※東田川郡八栄里村大野
・　同　「明治農法の形成過程―山形県庄内地方の稲作改良―」（『農法展開の論理』一九七五　御茶の水書房）

2　農業総合研究所グループ

・農業総合研究所『善治日誌』（一九七七　東大出版会）　※飽海郡本楯村豊原
・　同　『豊原村』（一九七八　東大出版会）
・東北農業研究会『東北農業・農村の諸相』（一九八七　御茶の水書房）
・大場正巳『農家経営の史的分析―明治初期以降農地改革にかけての東北一農家経営の展開構造―』（一九六一　東洋経済新報社）　※東村山郡西郷村高松
・　同　『本間家の俵田渡口米制の実証的研究』（一九八五　御茶の水書房）
・　同　『本間家の俵田渡口米制再考』（二〇〇五　私家版）
・　同　『「善治日誌」を読む』（二〇一五　私家版）
・杉山茂『上荒俣の歩みと圃場整備』（一九八二　積雪地方支所・研究資料第三八号）
・　同　「庄内地方における一農家の生活構造」（『農業総合研究』第二六巻二号　一九

七二）　※東田川郡渡前村上荒俣
・宇野忠義『現代稲作の生産力構造』（一九八九　日本経済評論社）
・相川良彦『農村集団の基本構造』（一九九一　御茶の水書房）
・宇佐美繁『農村社会の史的構造』（『宇佐美繁著作集』第三巻　二〇〇五　筑波書房）
・磯辺俊彦『日本農業の土地問題』（一九八五　東大出版会），『歴史と風土を考える』（一九九三　私家版），『共の思想』（二〇〇〇　日本経済評論社），『むらと農法変革』（二〇一〇　東京農大出版会）
・『講座　日本の社会と農業　二　みちのくからの農業再構成』（一九八五）
・『同　八　総括編』（一九八六　いずれも日本経済評論社）

3　東北大学農村社会学グループ

・菅野正・田原音和・細谷昂編『稲作農業の展開と村落構造』（一九七五　御茶の水書房）
※西田川郡京田村林崎
・　同　『東北農民の思想と行動』（一九八四　御茶の水書房）　※飽海郡北平田村
・細谷昂編『農民生活における個と集団』（一九九三　御茶の水書房）※京田村と北平田村
・「庄内のむらと人びと」（『荘内日報』連載）一～三一七号（一九八六・一～一九九四・一）
・菅野正『近代日本における農民支配』（一九七八　御茶の水書房）
・　同　『農民支配の社会学』（一九九二　厚生社恒星閣）
・細谷昂「酒田農業の近代史―明治維新から戦後まで」（『酒田市農業委員会史』一九八五）
・　同　『現代と日本農村社会学』（一九九八　東北大学出版会）
・　同　『家と村の社会学』（二〇一二　御茶の水書房）
・　同　『庄内稲作の歴史社会学』（二〇一六　御茶の水書房）
・　同　『小作農民の歴史社会学』（二〇一九　御茶の水書房）　※阿部太一の日記
→阿部太一『稲作豊凶の予知はできないか―五五か年間の気象予測の記録―』（一九七七　農業荘内社）　※西田川郡大泉村白山
→田崎宣義「小作農家の経営史的分析」「　同　」一（『一橋大学研究年報　社会学研究』第二一・二二号　一九八二・八四）　※阿部太一家文書の研究
・小林一穂『稲作生産組織と営農指向』（一九九九　多賀出版）
・　同　『農本主義と農業者意識』（二〇一九　御茶の水書房）
・永野由紀子『現代農村における「家」と女性―庄内地方に見る歴史の連続と断絶―』（二〇〇五　刀水書房）

4　新しい指導者の登場など

・高橋保一『イネの生育診断と栽培法』（農村通信社　一九七六）　※農村通信社稲作講師
※田中正助の弟子　飽海郡本楯村城輪
・　同　『庄内・高橋式イネの生育診断と多収栽培』（一九八六　農文協）
・松浦宇一「葉色診断で生育調整，『農村通信方式』」（『稲作全書　イネⅢ　精農家の技術体系』所収　農文協　一九八四）　※農村通信社第六代社長
・片倉権次郎『誰でもできる五石どり―片倉式イナ作のすべて―』（一九六四），『同 続』（一

九六八),『田植機イナ作を語る』(一九七九 いずれも農文協) ※東置賜郡川西町(未見)
・星寛治『鍬の詩』(一九七三　ダイヤモンド社)他多数　有機農業　※東置賜郡高畠町
・　同　『自分史―いのちの磁場を生きる―』(二〇一九　清水弘文堂書房)

Ⅵ　その他

1　農業

・長井政太郎「庄内地方京田興屋新田の研究」(一九三二　郷土研究叢書　第三輯)
・　同　「庄内平野の新開集落」(『山形大学紀要(人文科学)』第三巻二号　一九五二)
・『山形県庄内地方における各種農業記念碑』積雪地方支所・研究資料第三六号(一九七七)
・加藤治郎『早乙女はいま―目で見る機械化前東北稲作の慣行と民俗―』(一九八〇 宝文堂)
・　同　『東北稲作史―東北稲作機械化前の技術と習俗―』(一九八三　宝文堂)
・春日儀夫『目で見る荘内農業史』(一九八四　エビス書店)
・竹島溥二『庄内稲作農業の発展の歴史と展望』(一九八五 東北出版企画)※山形大農学部
・大沼済『新稲作技術読本』(一九八九　荘内日報社)　※第一一代庄内支場長
・阿部英樹『近世庄内地主の生成』(一九九四　日本経済評論社)
・武山省三『凌霜史―松ヶ岡開墾場百二十年のあゆみ―』(一九九七　松ヶ岡開墾場)
・宇田川正夫『「農業王国・庄内」はいかに形成されたか―その特質と発展構造―』(二〇〇一　東北出版企画)　→同遺稿集『荘内農業研究』(一九九五　私家版)と同内容
・阿部博行『山形県立庄内農学校四七年史』(二〇〇九)
・保木本利行「戦後庄内砂丘地における園芸作(メロン作)の歴史(前史～一九九八年)」(『山形大学紀要(農学)』第一五巻四号　二〇〇九)
・西川邦夫『庄内農業の構造変動の特質―現代的条件と歴史的条件から―』(『日本の農業』二四九　二〇一六　農政調査委員会)
・　同　「庄内水田農業の現段階―構造変動の歴史的パターンは変わるのか？―」(『農村経済研究』第三六巻一号　二〇一八)

2　農民運動など

・法政大学経済学部農業問題研究会編『山形県農民運動史』(一九五九) ※飽海郡北平田村
・斎藤寿夫『荘内農民運動史』(一九六二　中村書店)
・山形県歴史教育者協議会・同近代史研究会編『山形農民のたたかいの歴史』(一九六九)
・佐藤治助『ワッパ一揆―東北農民の維新史―』(一九七五　三省堂　一九九五　鶴岡書店)
・　同　『自由民権の先駆者　森藤右衛門』(二〇〇二　鶴岡書店)
・佐藤誠朗『ワッパ騒動と自由民権』(一九八一　校倉書房)
・ワッパ騒動義民顕彰会編『大地動く―蘇る農魂―』(二〇一〇　東北出版企画)
→日塔哲之「ワッパ騒動後の庄内の村」(『山形県地域史研究』会報第三四号　二〇〇九)
→『道形史』(二〇〇八　同刊行実行委員会)※菅原豊蔵の生地　西田川郡大宝寺村道形
・竹内丑松『夜明けをめざして―わがたたかいの回想―』(一九八〇　光文堂書店)
・富樫義雄その生涯と思い出刊行会編『富樫義雄―その生涯と思い出』(一九八六)

満洲移民　※東田川郡大和村

・山木武夫の生涯刊行会編『米よ組合よ故郷よ―山木武夫翁の生涯―』（一九八九）
産業組合運動　新堀村村長　※東田川郡新堀村落野目

・武田共治『日本農本主義の構造』（一九九九　創風社）　※山木武夫・富樫義雄など

・　同　（代表）『戦前期の山形県庄内地方における農本主義運動に関する実証的研究』（二〇〇二　科研費報告書）

・森武麿・大門正克編著『地域における戦時と戦後―庄内地方の農村・都市・社会運動―』（一九九六　日本経済評論社）　※鶴岡市・東田川郡黄金村・同郡黒川村

・森芳三『昭和初期の経済更生運動と農村計画』（一九九八　東北大学出版会）

・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟山形県鶴岡田川支部編『不屈の人々―社会進歩をめざした庄内の先覚者たち―』（二〇〇七）

3　庄内米・山居倉庫

・光丘文庫編『酒田米の歴史』（一九二七）

・小山孫二郎「大地主と庄内米の流通」（『日本農業発達史』別巻上 中央公論社）

・三上初子『荘内藩の米札から山居倉庫米券への移り変わり』（一九八五　私家版）

・高橋義順『山居倉庫と庄内米』（一九九七　山居倉庫）

4　庄内の農村生活文化

・真壁仁編『弾道下のくらし―農村青年の生活記録―』（一九五〇　毎日新聞社）

・読売新聞社社会部編『日本の土：大豊作の記録』（一九五五　東大出版会）

・同『日本の土：一農家の戦後三〇年の記録』（一九七五　読売新聞社）※西村山郡醍醐村

・朝日新聞山形支局編『人と土　山形農民の記録』（一九七五　東北出版企画）

・山形放送編『聞き書　昭和のやまがた五〇年』（一九七六　東北出版企画）

・稲垣吉彦『榾火は消えて―農民群像の記録―』（一九八一　作品社）

・石川正敏『庄内風土記』上・中・下（一九七二～四　荘内日報社）

・阿部襄『庄内の四季』（一九七九　農文協）　※飽海郡上郷村松山町

・田村寛三『酒田ききあるき』正・続・続々(一九七九，一九九〇，一九九五　同刊行会)

・　同　『さかた風土記』正・続（一九九八，二〇〇三　同刊行会）

・犬塚幹士『庄内のくらしと民具』（一九九三　致道博物館）

・山形県・山形県女性のあゆみ編纂委員会編『時を紡ぐやまがたの女性たち』（一九九五　みちのく書房）

・山下文男『昭和東北大凶作―娘身売りと欠食児童―』（二〇〇一　無明舎出版）

・　同　『昭和の欠食児童』（二〇一〇　本の泉社）

・佐藤玄祐『歯噛みして生きて―聞き書・昭和の櫛引の人びと―』正・続（二〇〇五，二〇〇九　鶴岡書店）　※東田川郡櫛引村（山添村・黒川村）

→『櫛引町農業抄史：櫛引町農業委員会史』（一九八五　同編纂委員会）

→『佐藤正久写真集』（一九八七　同刊行会）

→真壁仁『黒川能』（一九七一　NHK）　※東田川郡黒川村

5　山形の文学

・無着成恭編『やまびこ学校』（一九五一　青銅社）他多数　※南村山郡山元村
・佐藤藤三郎『二五歳になりました』（一九六〇　百合出版）他多数　※南村山郡山元村
→庄司俊作「戦後農民の『戦後』と『高度経済成長』―『ものいう農民』・佐藤藤三郎の戦後史　一九五〇～七〇―」（庄司編『戦後日本の開発と民主主義』昭和堂　二〇一七）
→大牟羅良『ものいわぬ農民』（岩波新書　一九五八）
・木村廸夫『百姓がまん記』（二〇〇二　新宿書房），同『牧野むら百姓日記』（一九九九　東北出版企画）他エッセイ・詩集など，※佐藤と同級　真壁仁の指導　※南村山郡東村牧野
→原村政樹『無音の叫び声―農民詩人・木村廸夫は語る―』（二〇一五　農文協）
→　同　監督　ドキュメンタリー映画『無音の叫び声』（二〇一五）　（未見）
・真壁仁『百姓の系譜』（一九八三　東北出版企画），同『野の自叙伝』（一九八四　民衆社）
・同『野の文化論』全五巻，『野の教育論』全三巻（いずれも民衆社）　※山形市
・佐藤治助『野に生きる―若き日の真壁仁―』（一九八四　民衆社）　※真壁仁の指導
・　同　『庄内語』シリーズ三冊（一九九二，九四，二〇〇〇　いずれも鶴岡書店）
・　同　『村の暮らしと藁』（二〇〇〇　東北出版企画）　※西田川郡大山村下小中
・　同　『野に生きて―佐藤治助著作選集―』（二〇〇八　鶴岡書店）
・藤沢周平『義民が駆ける』（一九七六　中央公論社）　天保期の三方領地替え
・　同　『周平独言』（一九八一　中央公論社），『小説の周辺』（一九八六　文藝春秋），『ふるさとへ廻る六部は』（一九九五　新潮文庫）　※東田川郡黄金村高坂
・東山昭子『荘内の風土・人と文学』（一九八九　東北出版企画）

6　人物・地名・写真など

・『全国篤農家列伝』（一九一〇　愛知県農会）　※東田川郡では佐藤清三郎
・『日本農界偉人名鑑』（一九一一　多木製肥所）
※東田川郡では佐藤清三郎，西田川郡では小川又次郎，飽海郡では堀熊太郎
・大西伍一『日本老農伝』（初版一九三三　平凡社　改訂増補一九八五　農文協）※東田川郡では佐藤清三郎，阿部亀治，西田川郡では工藤吉郎兵衛，木村久兵衛，飽海郡では酒井調良
・青木恵一郎編著『農林水産業の発展に尽くした人々―山形県―』（一九七一　興亜会）
・大瀬欽哉監修『新編庄内人名辞典』（一九八六　同辞典刊行会）
・「郷土の先人・先覚」（『荘内日報』ホームページ，一～三五五（一九八八・四～一九九八・五に農業関係者五五名を掲載）
・小松隆二『公益の種を蒔いた人びと―「公益の故郷・庄内」の偉人たち―』（二〇〇七　東北出版企画）
・『角川日本地名大辞典６　山形県』（一九八一　角川書店）
・『日本歴史地名大系６　山形県』（一九九〇　平凡社）
・『鶴岡市史資料編　荘内史料集一五・荘内史要覧』（一九八五　鶴岡市史編纂会）
・横山昭男他『山形県の歴史』第二版（二〇一二　山川出版社）
・岩本由輝『山形県の百年』（一九八五　山川出版社）

・『目で見る酒田市史』（一九七八　酒田市史編纂委員会）
・酒井忠明『写真集　むら里の四季』（一九七八　東北出版企画）　※酒井家第一七代
・　同　『写真集　出羽國庄内　農の風景』（一九九七　東北出版企画）
・佐藤三郎編『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 酒田』（一九八二　国書刊行会）
・日向文吾編『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 鶴岡』（一九八三　国書刊行会）
・『図説　山形県史』（一九八七　山形県）
・横山昭男監修『図説　山形県の歴史』（一九九六　河出書房新社）
・『目で見る鶴岡・田川の百年』（一九九五　郷土出版社）
・『目で見る酒田・飽海の百年』（一九九五　郷土出版社）
・前田光彦監修『図説　庄内の歴史』（二〇〇〇　郷土出版社）
・『図説　鶴岡のあゆみ』（二〇一一　鶴岡市史編纂会）

7　年表

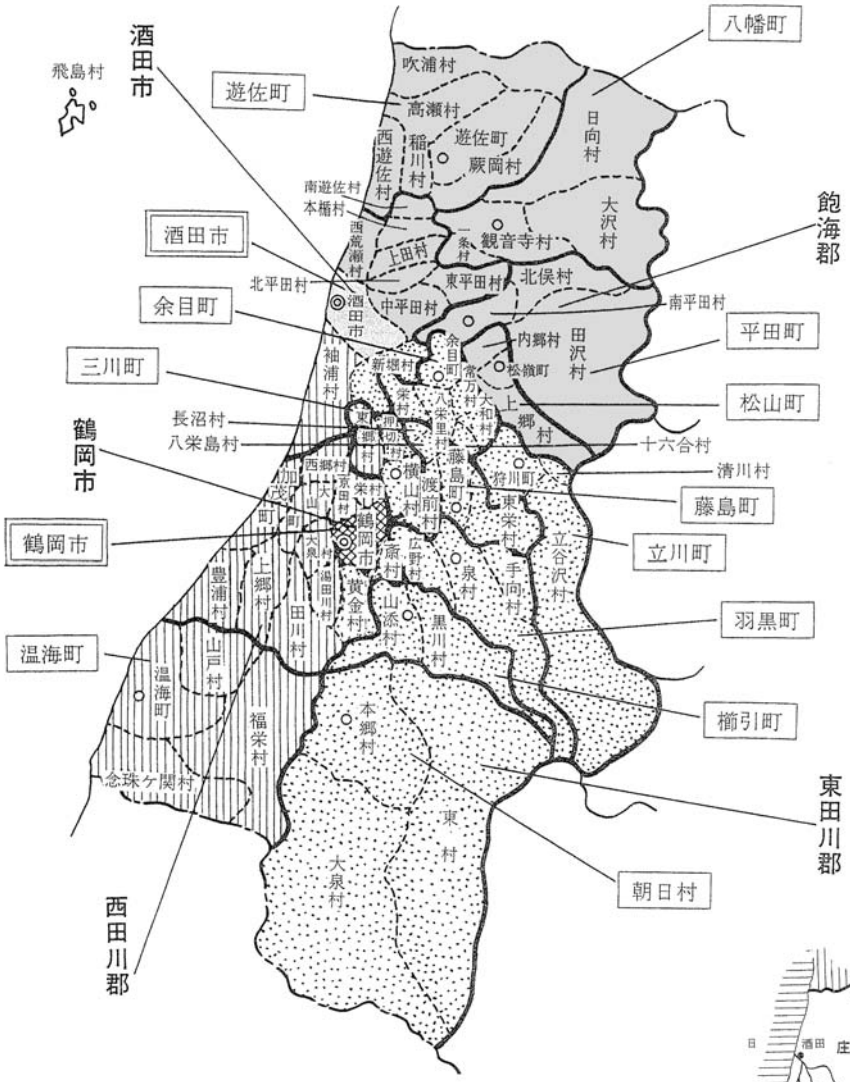
・岩本成雄編『荘内経済年表』（一九三八　恵比壽屋書店）
・（阿部正己編）『荘内史年表』（一九五五　鶴岡市史編纂会）
・『酒田市史年表　改訂版』（一九八八　酒田市史編纂室）
・『山形県史』別編三　年表（一九八九　山形県）
・『新編庄内史年表』（二〇一六　鶴岡市史編纂会）
・『山形県における米作統計：市町村別累年反当収量並びに主要品種作付面積の変遷』（『総合指導資料』第二五号　一九六九　山形県農林部）
・『山形県農林水産業のすがた―農林水産累年統計―』（一九九八　東北農政局山形統計情報事務所）
・『山形の気象百年』（一九九二　山形地方気象台）
・『山形県災異年表』増補第一〇版（二〇一五　山形地方気象台・山形県農林水産部）
・浅川勝・西尾敏彦編『近代日本農業技術年表』（二〇〇〇　農文協）

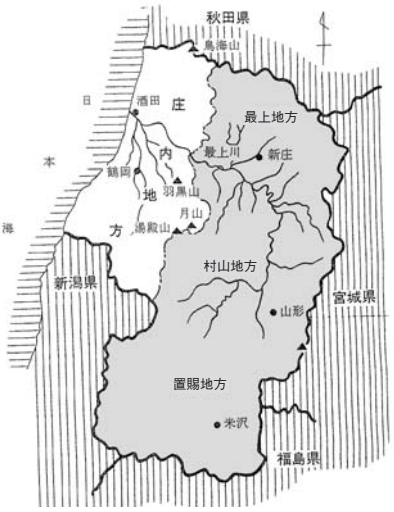
文献リストの検索に関しては，大阪経済大学図書館，国立国会図書館サーチ，農林水産省関係試験研究機関の Agropedia, CiNii Books, CiNii Articles, 山形県立図書館，酒田市立図書館・光丘文庫，鶴岡市立図書館，日本の古本屋，アマゾンなどの検索システムを利用させていただきました。

文献収集・複写に関しては，多くの関係諸機関・個人にお世話になりました。とりわけ，大阪経済大学図書館閲覧係には多大のお世話になりました。京都大学農学研究科生物資源経済学専攻司書室，鶴岡市郷土資料館，酒田市立資料館，西尾敏彦氏，鶴岡市の阿部久書店様には格段のご高配を賜わりました。地元庄内の方々には，時間と手間をかけて有り余るほどのご親切をいただきました。記して感謝します。これが庄内か。

本研究は，日本学術振興会・基盤研究（C）一般の令和二～四年度（課題番号20K06288）の研究成果の一部です。なお，誤りや他に付け加えるべき文献などがあれば，徳永までメールなどにてお知らせくだされば幸甚です。toku@osaka-ue.ac.jp

庄内地方の広域合併（1954～63年）以前の旧郡，市，町，村と，
1986年現在の行政区分の関係見取り図





現在の市町村名（境界を太線で示す）。

○斜線，アミなどによる区分けは，広域合併時までの郡市別を示す。
○飛島村は，町村合併促進法施行前の昭和25年４月１日に，飽海郡より酒田市に編入となる。

本図は，菅洋『庄内における水稲民間育種の研究』４～５頁（1990 農文協）より。なお，一部改変。
原図は，『新編庄内人名辞典』745頁（1986年，庄内人名辞典刊行会）。